

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		9,460	t-CO ₂
① （温 を 二 室 除 く 化 果 炭 ガ ス 換 算 排 出 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		9,460

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度 令和 6 年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和 9 年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総 排 出 量		t-CO ₂		t-CO ₂	

項 目	基準年度 令和 6 年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和 9 年度 目標削減率	
	原単位当たりの 排 出 量	0.1193	t- CO ₂ / m ²	0.1169	t- CO ₂ / m ²	2.0

（2）目標設定の考え方

熱源システムの更新により、高効率な設備を構築する。

備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
 備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
 備考 3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・省資源の推進／冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> ・中央監視室における設備の運転時間、冷温水、室温設定のきめ細かな管理 ・中間期における冷温水温度設定の緩和 ・クールビズ、ウォームビズの推奨 	
省エネルギー・省資源の推進／冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> ・冷温水機など経年設備の更新による高効率化 ・各種ポンプのインバータ化の検討 	数年内の実施を目指す
省エネルギー・省資源の推進／照明他	<ul style="list-style-type: none"> ・照明器具全数のLED化 ・照明点消灯のスケジュール管理（照明制御） ・エレベータの時間帯における停止運用 	
自動車利用における取組	<ul style="list-style-type: none"> ・アイドリングストップの確実な励行などのエコドライブを推進 ・公共交通機関の積極的利用 	
職員の省エネ意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー消費実態の見える化（周知） ・不要な照明の消灯や不要な空調の停止および設定温度ミニマム化などの周知徹底 	

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	%

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

両面コピー、裏紙使用等による紙使用量の削減 日報、報告書等のペーパーレス化
--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

ノー残業デイの設定により定時退社に努める。
